

建設省工務研究所 正員 ○ 島谷 幸宏
 “ 正員 馬場 洋二

はじめに

河川環境について考える場合、物理的な空間や物質および具体的な活動ばかりに着目するのではなく、人間の
 べの中に存在する河川環境（ここでは、観念的河川環境とよんだ）に着目することが重要である。

ここでは、以上のことを踏まえながら、河川と係わりのある種々の事例および河川イメージについてのグルー
 プインタビューの結果をもとに河川環境および河川の持つ親水機能について考察した結果を示す。

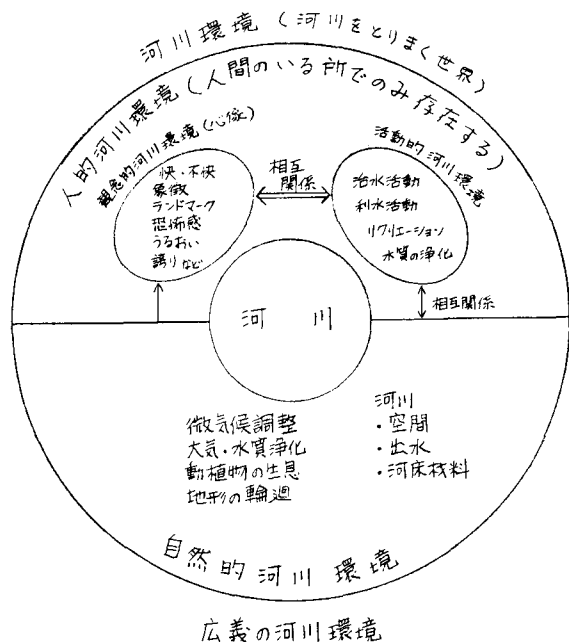
1. 河川環境とは？

河川環境を考える場合、『河川ととりまく種々の事象のすべて』を河川環境とする場合と、それから治水・利
 水に関する事柄をとり除いたものを河川環境とする場合がある。ここでは、前者を広義の河川環境、後者を狭義
 の河川環境と呼ぶ。一般的には、河川環境という用語は、狭義の意味で用いられることが多い。

広義の河川環境と、人間との係わりという観点より考えてみると、自然的河川環境と人的河川環境に分けるこ
 とができる。自然的河川環境とは、人間のいない所にも存在する河川環境のことで河川自体がもつ空間、河川
 に存在する河床材料、生物、水などがあげられる。人的河川環境とは、人間がいるところでのみ存在する、河川
 ととりまく諸事象のことであり、さらに活動的河川環境と観念的河川環境に分けることができる。

活動的河川環境とは、河川と媒介として行う人間の諸活動およびそれに伴う諸事象のことで、治水活動、利
 水活動、河川を使ったりクリエーション、橋梁などの河川構造物など、があげられる。

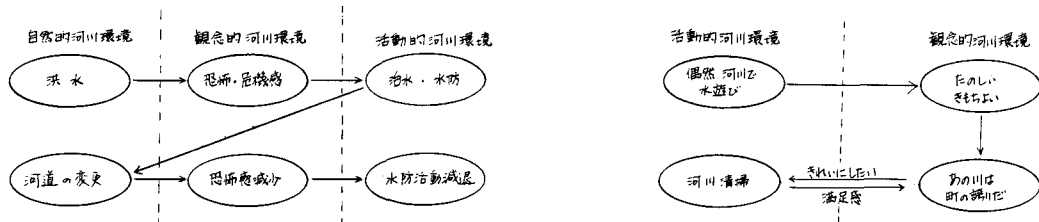
また、観念的河川環境とは、直接河川に接することなく、感じたり考えたりする河川環境で、河川に対する恐
 怖感、愛着・愛着感などがあげられる。すなわち、河川ととりまく観念的な世界といえる。例えば、河川に直接
 行かなくても、『あの河川には生物がた
 くさんいて、水がきれいだった』と観念的に
 思うことにより満足した場合、その人にと
 って、観念的な河川環境は極めて良好
 と言える。このように、人間は、実体と
 直接、見たり触れたりすることなく、河
 川の観念的なイメージが良いことに大き
 な価値を置くことがある。最近の河川と
 とりまく住民活動にこのようなものが増
 えている。一例をあげれば、カヌー・ボ
 ット・サーフィン運動の隆盛である。この運動は、
 実際に活動している人は、わずかにある
 が、新聞などの記事で、河川にサウナが戻
 ってきたことを知るだけで満足する人が
 大多数である。



2. 自然的河川環境と活動的河川環境、観念的河川環境の関係

自然的河川環境、活動的河川環境、観念的河川環境は、互いに独立ではなく、相互関係がある。たとえば、自然的河川環境の一つの洪水により、人々は、恐怖にさいだく。その恐怖が原動力となり活動的河川環境の治水活動・水防活動が行なわれ、それによって、自然的河川環境の一つの要素の河道は、改修される。河道改修により治水安全度が高くなると、恐怖感は減少し、水防活動は減退する。

また、観念的河川環境と活動的河川環境の間にも相互関係がある。たとえば、全く河川に関心がない人が、偶然河川で楽しく、快く遊んだ場合、河川に対する良いイメージが喚起されるであろう。良いイメージによって、河川に行きたいという支持も強くなり、河川に直接触れる体験も増えるであろう。このように、三者は互いに影響しあっている。この中でも、特に観念的河川環境は、従来、明確な概念としてとらえられていないが、活動的河川環境や観念的河川環境を良くする原動力となるもので、重要な概念である。



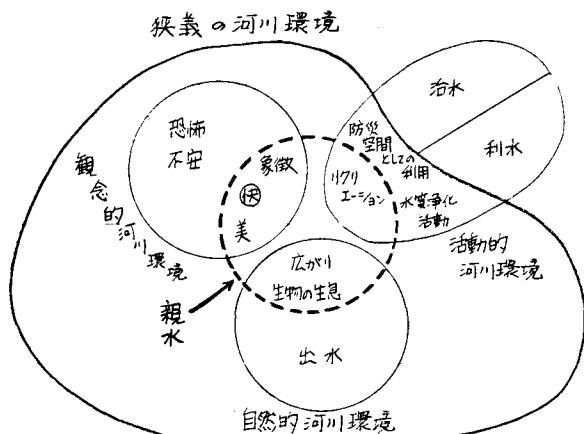
3. 親水機能について

親水という用語は、山本・石井¹⁾が狭義の河川環境と同義語として用いたのが最初である。その後、親水という語は、良く使われるが「親水=狭義の河川環境」という意味よりも、もう少し限定した意味で用いられる場合が多い。ここでは、親水とは、狭義の河川環境のうち、情緒的レベルで快というバの動きとつながるもの、および快というバの動きそのものと定義する。したがって必ずしも河川で行なわなくてもよい活動も含む。たとえば、河川敷でのスポーツ活動やリクリエーションも親水の一部と考える。また、美しい河川空間も、人間に快というバの動きを与えれば、親水と呼ぶことができる。また、河川に生物がいることを新聞の記事で知り満足することも親水といえる。

このように、親水という用語の持つ概念は、狭義の河川環境の自然的・観念的・活動的河川環境の3つの部分にまたがる広い概念である。

したがって河川の親水機能には、自然的親水機能ばかりではなく、観念的な親水機能も含まれる。たとえば、自然の象徴としての機能や宗教的な象徴としての機能などである。

今後、河川環境を向上させようとするとき、河川に関する観念的な親水機能と結びつけるような、配慮が必要であると考えられる。



狭義の河川環境と親水

- 参考文献 1) 山本・石井 “都市河川の機能について” 第26回土木学会年議
2) 馬場・島谷 “都市域に望まれる河川像に関する研究(その1)” 工研資料第211号 1984.3